

豪雨・暴風雨における運転

安全運転まめ知識シリーズ

豪雨や暴風雨時の運転の危険性

◆視界が確保できない

豪雨や暴風時は、激しい降雨により視界が確保できなくなります。それに加えて、先行車や並進車の水しぶきが視界を遮ることもあり、前方の状況を把握するのがより困難になります。

◆低い場所では冠水のおそれがある

低い場所では、局地的大雨(数十分の短時間に狭い範囲に数10ミリ程度の雨量をもたらす雨)などの激しい雨のときは、あっという間に水量が増して通行できなくなったり、車が水没するおそれがあります。また、アンダーパス(立体交差で掘り下げ式になっている下の道路)や地下トンネルのような低い場所は、雨水が流れ込んで冠水し、通行不能になることもあります。



▲豪雨時は視界が極端に悪くなる

事故防止のポイント

◆できるだけ運転を控える

天気予報など気象情報をチェックし、豪雨や暴風雨が予想されるときは、できるだけ運転は控えましょう。万一、走行中に予期せぬ集中豪雨に襲われ、ワイパーを最速にしても視界が確保できない場合などは、無理に運転を続けずに、最寄りの安全な場所に車を止めて避難しましょう。

◆低い場所などの走行は避ける

豪雨や暴風時にやむを得ず走行するときは、スピードを十分に落とし適切な車間距離をとるとともに、アンダーパスや地下トンネルなどの通過は避けましょう。冠水しやすい場所は掲示板等が設置されていますから、普段から冠水しやすい場所を知っておくことも大切です。

万一、冠水道路に入り込んで立往生した場合は、速やかに車の外に脱出しましょう。



▲冠水したアンダーパス